

オーディオ実験室収載

DA-3000 の活用(3) —DSD 音源のリマスタリング—

1. はじめに

ダウンロード DSD 音源については、「DSD 事始め顛末記(8) —ダウンロード DSD 音源—」と前報の「DA-3000 の活用(2)」にその結果を報告していますが、どうも納得のいく音質が確認できていません。今回、DSD 音源のリマスタリングと銘打つのは大げさすぎて気がひけますが、少し変わったアプローチでダウンロード DSD 音源の音質を変えてみよう試みてみました。

2. リマスタリングの方法と試聴方法

ダウンロード DSD 音源を SD メモリーから読み出し、AudioGate で 96KHz, 24bit WAV に変換して USB-201 に送り出し、USB-201 で S/PDIF に変換後 CCV-5 でリクロックして DAC-1 で DA 変換を行います。DAC-1 からの入力を DA-3000 で DSF, 5.6MHz に変換しモニターしながら SD メモリーに録音します。なお、USB-201 は Musical Position とし、GPS-777 から 192KHz のクロックを入力、CCV-5 には 96 KHz、DA-3000 には 44.1KHz のクロックを入力しました。

3. ダウンロード DSD 音源のリマスタリング結果の試聴結果

ダウンロード DSD 音源はすべて DSF, 5.6MHz のものを選択しました。これを元音源とし、上記のリマスタリング音源と元音源を DA-3000 で再生して比較します。

元音源の印象は前報の「DA-3000 の活用(2)」で述べたとおりですが、リマスタリング後の音源の再生あるいは録音中のモニター音は明らかに元音源の音と変っています。より繊細になり見通しが良いことは事実ですが、反面、一度 PCM に戻すせいか、わずかに PCM らしい音も乗ってきます。どちらを取るかと言われば、リマスタリング音源となります。好みによって評価は分かれるかもしれません。しかし、リマスタリング音源と言えども、BS 録画やアナログから録音した DSD 音源に及ばないことも事実で、やはりダウンロード DSD 音源の特性についての疑問は残ります。

4. まとめ

ダウンロード DSD 音源を AudioGate で再生し、USB-201 経由で DA-3000 で DSD 録音することにより確実に音は変わります。一度 PCM に変換したり、精度のよい外部クロック入力によってリクロックする効果が現れているものと考えられます。BS 録画やアナログから録音した DSD 音源に及ばないことはいたしかたありませんが、好みとし

てはこのような処理もあってしかるべきと感じています。

以上